

下市場コース

距離／約3km 所要時間／約1時間45分

下市場のなりたち

古くは衣郷五日市場と称されて、鹿島神社の境内で、碧海郡の農家が農産物を拳母の商人と取引し、衣郷下市場村となる。



凡 例

- 陽だまり散歩みち
- 陽だまり
- みどころ
- トイレ
- 休憩施設
- 花壇
- コース案内板
- 道標

「工場・商店・田園」風景が美しく見える街 下市場散歩みち

枝下緑道(根川用水)桜並木

根川用水は、農業用水路の枝下用水の支線として明治23年に、西澤真蔵翁により築造された。枝下緑道には、途中で東屋があり全長800mの間に70本の幹が太く、大きなソメイヨシノの桜並木がある。これは小島プレス工業(株)から苗木の寄付を受けて、下市場自治会の区民により昭和53年に植樹されたものである。



1 鹿島神社(下市場町4丁目)

1570年、織田信長の朝倉攻めに、この地方の武士も出陣した。拳母城主、與語久兵衛勝久などが出陣するとき、鹿島神社で戦勝を祈願したとされている。その後、宝永4年(1707年)3月、下市場村矢頭久左衛門が主となり、鹿島大明神の本地仏十一面観世音菩薩像を造って祭った。明治6年(1873年)村内の羽根田氏の氏神鎮守稲荷社、日高氏の氏神八王子社をこの神社と一緒に祭った。神社境内は、昔より市場として賑わい、中世の五日市場と推定されている。明治末期の頃まで、碧海郡の農家が境内に農産物を持参して、拳母の商人と取引していた。



2 常光寺(下市場町4丁目)

常光寺の開基は下市場村の日高庄左衛門(常輪)といい、長興寺で修行し、この寺を開いた。日ごろから熱心な仏教信者であり、観音様を深く信仰していたが、明治18年(1885年)52歳の時、家督を譲り、同20年には、自ら観音堂を建立した。同34年に常輪と名を改めた。寺の中には、33体の観音像が祭られているため、地域の人々はこの寺を常輪さんとか観音さんと呼んで親しんでいる。



3 光明寺(下市場町5丁目)

光明寺がいつできたか、はっきりわからないが、古い記録によると1332年には光明寺という名のお寺があり(渋川の近く)、1517年の洪水で流されたとある。今の光明寺は、1571年、與語久衛により開かれました。本尊の阿弥陀仏は、伊勢大神宮の仏像と同じ作者(賢問子)により、同じ木で作られたという言い伝えがある。明治時代になって、住職の石原玄静という人が習字の塾を開き、多くの子ども達を教えました。これが根川小学校の始まりとなった。境内には住職だった玄静の石碑が残っている。



4 秋葉山常夜燈(下市場町5丁目)

光明寺山門のある西の道路は、かつては瀬戸と岡崎を結ぶ岡崎道路として、大変重要な道路であった。その光明寺山門横に常夜燈が設置されている。常夜燈は村内安全を祈るため、村内の人たちが順送りに毎晩交代で蠟燭の献灯をしていた。また献灯をする時に手提箱を申し送っていた。現在でも蠟燭の献灯、手提箱の申し送りは続いている。



5 石の道標(下市場町1丁目)

長田館の南東の角にあったと考えられる道標である。何百年もの間、風雨にさらされ風化しており文字はほとんど読み取れないが、かすかに下記の文字が読み取れる。

右 志ん川 大はま
左 てんじんばし おかざき



6 長田氏館跡(金谷町8丁目)

【長田氏についての言い伝え】

長田氏は、桓武平氏(桓武天皇の子孫)で、父祖の代より尾張野間内海庄司であった。平安時代末期のころ、長田忠致は平治の乱に敗れ、東に逃げて途中の源義朝を討ち、その功績でこの地に移り住んだとされている。1168年、この地に館を構え(長田館)、2つの大きなため池をつくり、近くの川を整備した。その川が長田川である。館跡は、東西44m南北118mの長方形で築かれた。源頼朝が平氏を倒すために立ち上がると、鎌倉に行き、一時頼朝に仕えましたが、1190年に滅びた。



